平成28年7月1日
第110号

やかたばら環境通信

◇◇　発行　◇◇
八方原の環境を守る会
代表　黒瀬和美
電話　972・5819

広い田んぼも大型田植機で植え付け



農道の交差点の中央で、みんなに話しかける杉山代表←

6月15日、黄色い帽子の一団が八方原橋を渡ってやってきました。上郷小学校2年生の田植え見学です。今年の2年生は119名という大人数です。

たくさんのお友達なので、お話をする場所も農道の交差点となりました。ここなら両方の道に、みんなが並ぶことができます。

農事組合法人八方原の代表杉山さんが、2年生のみんなに、八方原の田んぼのことや、お米のこと、田植えをしてくれる「大型田植機」のことなどをお話ししました。

「今歩いてくる途中にあったのは、ご飯にしてみんなが食べるお米だけれど、今植えているこの種類は殆どがお酒の原料になります。」というと、みんなびっくりしていました。

大型田植機がどのくらい作業が早いか、なかなか2年生には分かりにくいですよね。100人の人と田植えの早さを競っても負けないかも知れないというと「オー」という驚きの声が上がっていました。

みんなノートを持ってきていましたが、あまりにたくさんのお話だったので書き取ることはできない様子でした。けれどもたくさんの質問が出ていました。いっぱいお米を食べて、しっかり勉強して下さい。

防災を地域で考える場を作ろう　6月26日

昨今高まる地域防災について、八方原自治会として話し合う場を作ることとなりました。

熊本市の地震災害も、歴史的に地震が少ないと言われていたところで起きています。地震で被害を受けたその場所に記録的な雨が降るという容赦の無い気象条件には私たちはどうすれば良いのでしょうか。

昔からこの地区は大雨の度に圃場や道路が冠水したりしていました。圃場整備が行われ、地区全体の排水も整備されたことから、そうした冠水被害は少なくなっています。

しかし、よく言われる「ゲリラ豪雨」などでは狭い範囲に大量の雨が降って、その下流に一時的な大洪水を引き起こすことが見られます。

当地区でも平成21年には、深刻な水害が出たことは記憶に新しいと思います。そうした緊急時の対応の反省を元に議論できる場所になります。

まずは協議会の枠組みについて、話し合いました。

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

金色の麦を刈り取る

6月2日、麦の刈り取りが終わりました。およそ11ヘクタールの圃場に植えられた麦は、天候にも恵まれ予定通りの作業で終わったようです。

麦は米と比較して、管理に時間がかかります。最後の収穫も大型のコンバインの速度を上げられないと、関係者は話していました。

この麦は製パン用の小麦粉になりますが、後日訪れた上郷小学校のお友達は「ビールになるのですか」と質問しました。その直前に「日本晴れ」という品種のお米がお酒の原料になると話をしたからかも知れませんが、小学生もよく知っていますね。


金色に熟れた麦をコンバインがゆっくりと刈り取る

麦から稲にチェンジ

麦を作付けしていない圃場では、圃場は耕耘されて稲作の用意が始まりました。また植え付け用の苗も準備されます。４０００箱を越える苗箱を流れ作業で次々にセットしますが、その管理も大変です。

麦の終わった圃場では、大型のトラクターが3台がフル稼働。どんどん耕していきます。補助的に作業していた中型のトラクターは、途中でダウン。あまりの酷使に駆動部品が壊れてしまったようです。


大勢の人がそれぞれの持ち場で作業を分担して苗箱セット

今回新たに導入されたクローラー駆動のトラクターはその中で大活躍。耕起、代掻きだけで無く、特殊なローラーを使う「畦塗り」にも強力な駆動力で高い能力を発揮しました。

田植えは6月20日に終わりました。途中で雨天もあってなかなか予定通りに作業が進まなかったのです。農業法人化され、機械化が進みましたが、苗の積み込み、撒布する肥料の補充などで人手がいります。「誰でも良いから手伝って」という悲鳴のような声も聞こえましたが、今年も何とか終えることができたようです。


三角型のクローラーで駆動する新型のトラクター

地域の環境は地域の手できれいに


道路脇の水路には枯れ葉などがたまる

地域道と市道隣接公有地の草刈りは毎年2回行います。夏の作業が6月26日の朝行われました。

作業範囲は広く、公有地の草刈りはかなり厳しい作業ですが、地区住民の多くの参加で1時間足らずで作業は終了しました。

この地域道は舗装される前から地元で管理していましたが、舗装されてからも市からの援助を頂きながら作業を続けています。